

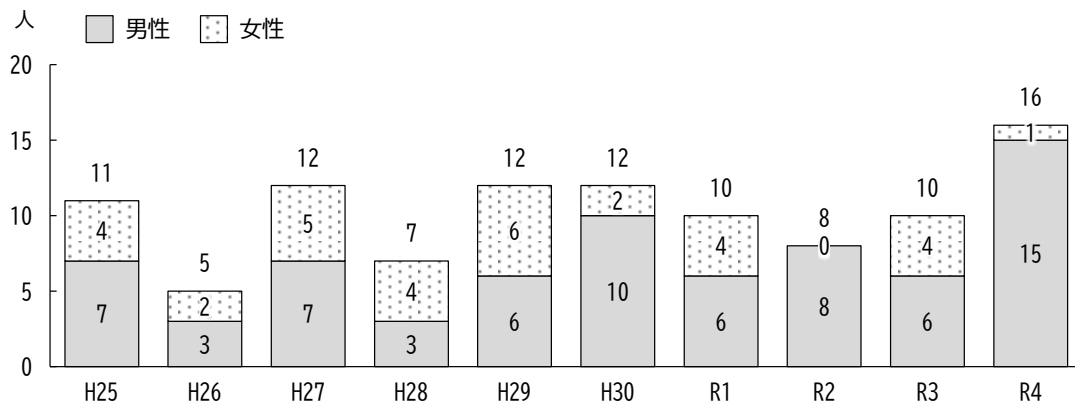
1 統計からみる栗東市の現状

(1) 自殺者数の推移

本市の自殺者数の推移についてみると、増減を繰り返しながら推移しており、令和4(2022)年における自殺者数は16人となっています。

男女別でみると、男性の割合が多くなっており、やや増加傾向にあります。

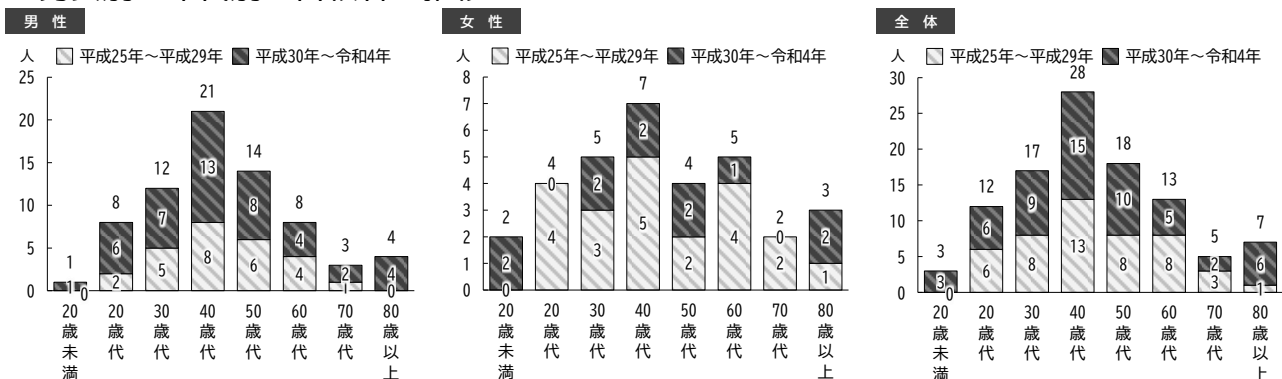
■男女別自殺者数の推移



資料：厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」

平成25～29年、平成30年～令和4年の間における男女別・年代別の自殺者の割合についてみると、男女ともに40歳代の自殺者が多くなっています。特に男性は平成25～29年、平成30年～令和4年のどちらも40歳代の自殺者が多いという傾向がみられます。

■男女別・年代別の自殺者の推移

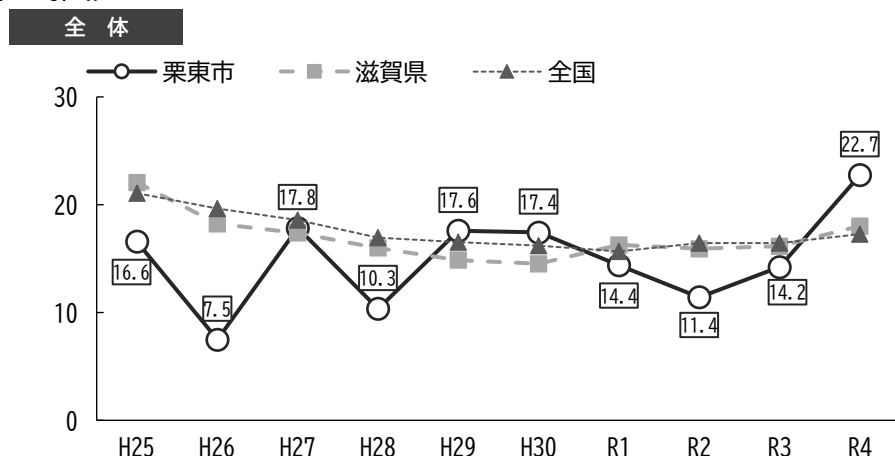


資料：厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」

(2) 自殺死亡率の推移

人口 10 万人あたりの自殺死亡者数である自殺死亡率の推移についてみると、増減を繰り返して推移しています。全国及び県と比較すると、令和 4（2022）年において全国・県を上回っています。

■自殺死亡率の推移

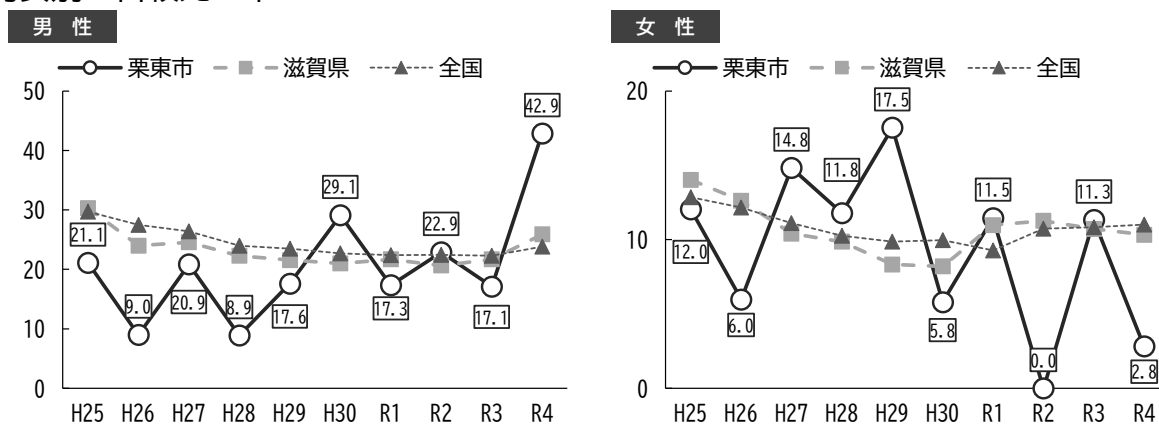


資料：厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」

(3) 男女別の自殺死亡率

人口 10 万人あたりの自殺死亡者数である自殺死亡率の推移について、男性は長期的にみると増加傾向にあり、令和 4（2022）年において全国・県を上回っています。女性の自殺死亡率は年度によって大きな差がみられるものの、長期的にみて減少傾向にあり、令和 4（2022）年において全国・県を下回っています。

■男女別の自殺死亡率



資料：厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」

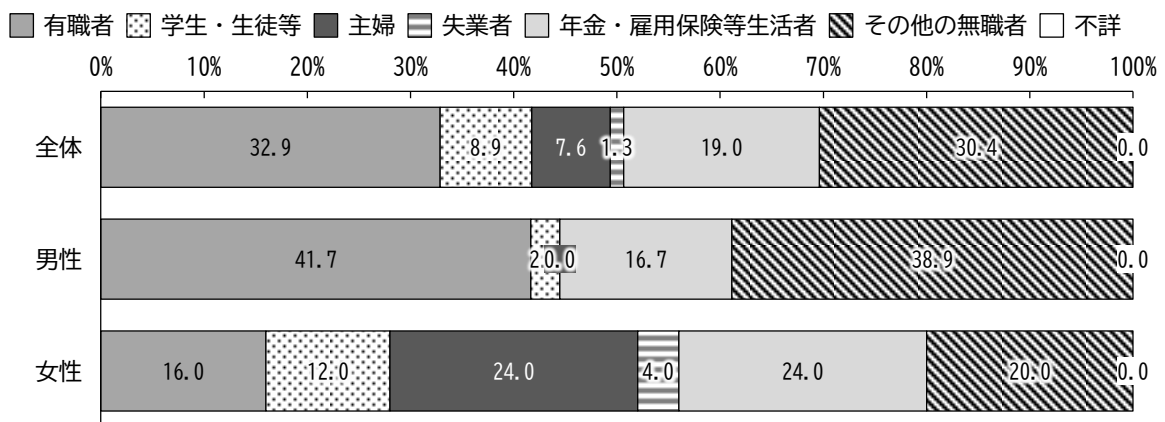
(4) 職業別の自殺者の状況、自殺の原因・動機

職業別の自殺者の割合についてみると、全体では「有職者」の割合が最も高くなっています。性別でみると、男性では「有職者」、女性では「主婦」「年金・雇用保険等生活者」が最も高くなっています。

自殺の原因・動機別自殺者の割合についてみると、全体・男性・女性ともに「健康問題」の割合が最も高くなっています。

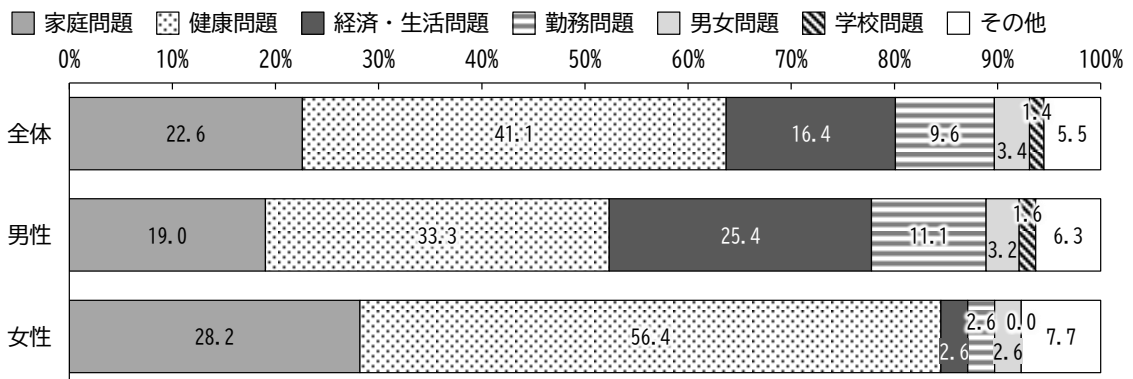
性別でみると、男性では「経済・生活問題」「勤務問題」、女性では「健康問題」「家庭問題」が高いという傾向がみられます。

■職業別自殺者の割合（平成25～令和4年）



資料：厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」

■自殺の原因・動機別自殺者の割合（平成25～令和4年）



資料：厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」

(5) 栗東市における自殺の主な現状と傾向

自殺の主な特徴についてみると、仕事や健康関係の悩みから身体疾患、うつ状態となり自殺につながるケースが多くなっています。

上位5区分	自殺者数 (平成29～ 令和3年) (人)	割合 (%)	自殺死亡率 (10万対)	背景にある主な自殺 の危機経路
1位：男性 60歳以上無職同居	6	11.5%	32.4	失業(退職)→生活苦+介護の 悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
2位：男性 20～39歳有職同居	6	11.5%	20.2	職場の人間関係/仕事の悩み (ブラック企業)→パワハラ+ 過労→うつ状態→自殺
3位：男性 40～59歳有職独居	5	9.6%	70.1	配置転換(昇進/降格含む)→過 労+仕事の失敗→うつ状態+ アルコール依存→自殺
4位：男性 40～59歳有職同居	5	9.6%	12.0	配置転換→過労→職場の人間 関係の悩み+仕事の失敗→う つ状態→自殺
5位：男性 40～59歳無職独居	3	5.8%	755.3	失業→生活苦→借金→うつ状 態→自殺

資料：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2022)」

2 県の相談事業からみる栗東市の未遂者の現状

本計画の策定のための基礎資料として、本市の自殺未遂者を把握するために、滋賀県立精神保健福祉センターが実施している湖南いのちサポート相談事業※の栗東市における実施状況を分析しました。

湖南いのちサポート相談事業

湖南圏域（草津市、守山市、栗東市、野洲市）の救急告示病院を受診した自殺未遂者やその家族に対して相談支援を行い、再企図を防止することを目的とした相談事業

<対象者>

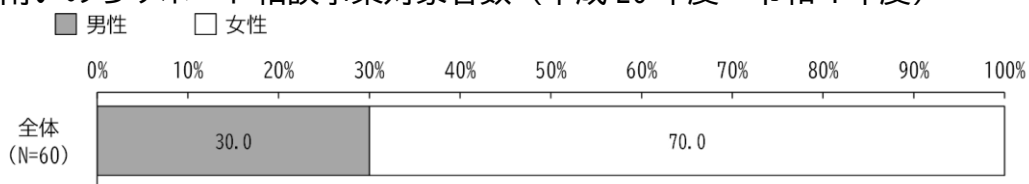
湖南圏域内の救急告示病院を受診した自殺未遂者で湖南圏域に在住する者のうち、本人またはその家族に相談支援の同意が得られた者

（１）事業対象者数

平成 26（2014）年度から令和 4（2022）年度における栗東市の湖南いのちサポート相談事業対象者について、性別でみると、女性が 70.0%と大半を占めています。

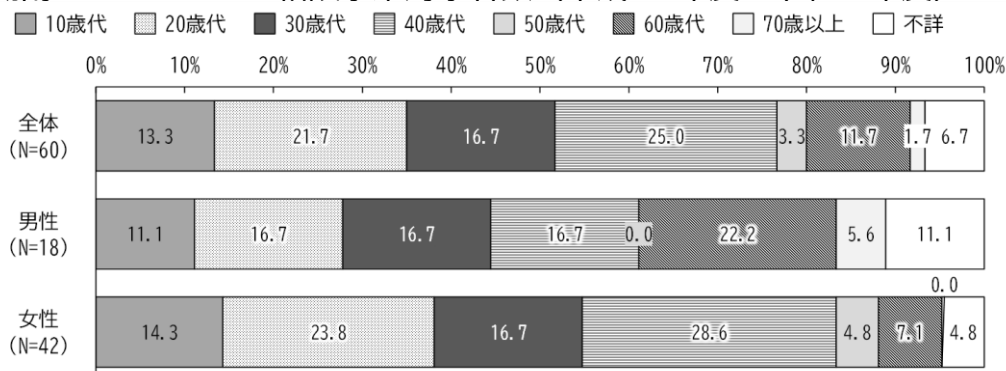
また、年代別にみると、全体では「40 歳代」が 25.0%と最も高く、次いで「20 歳代」が 21.7%、「30 歳代」が 16.7%となっています。性別・年齢別でみると、男性では「60 歳代」が 22.2%と最も高く、女性では「40 歳代」が 28.6%と最も高くなっています。

■性別湖南いのちサポート相談事業対象者数（平成 26 年度～令和 4 年度）



資料：障がい福祉課

■年齢別湖南いのちサポート相談事業対象者数（平成 26 年度～令和 4 年度）

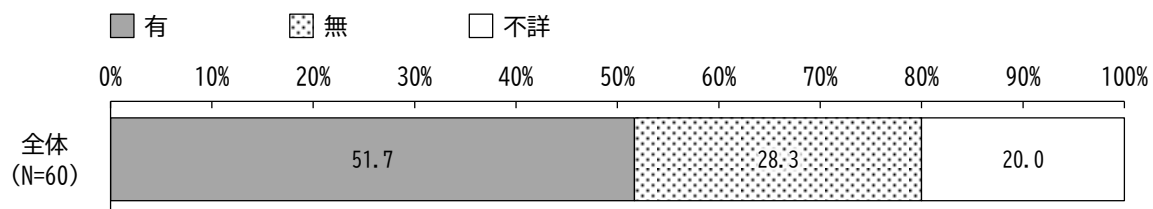


資料：障がい福祉課

（２）事業対象者の精神疾患について

平成 26（2014）年度から令和 4（2022）年度における栗東市の湖南いのちサポート相談事業対象者について、精神疾患の有無をみると、「有」が 51.7%となっています。

■湖南いのちサポート相談事業対象者の精神疾患の有無（平成 26 年度～令和 4 年度）



資料：障がい福祉課

3

第4期栗東市地域福祉計画策定に係るアンケート調査結果

令和3（2021）年に「第4期栗東市地域福祉計画」の策定のための基礎資料として、アンケート調査を実施しました。調査結果から、生きることの包括的支援（自殺対策）に係る結果を抽出し、分析します。

（1）調査の概要

- 調査対象：栗東市在住の18歳以上の市民2,000人を無作為抽出
- 調査方法：郵送による配布・回収
- 調査期間：令和3（2021）年10月

■回収結果

配布数：2,000件
回収数：757件
回収率：37.9%

※比較が可能な設問については、平成29（2017）年の調査結果（以下、「前回調査」という。）と比較しています。

(2) 結果の概要

■自分自身のことで不安（不満）に思っていること

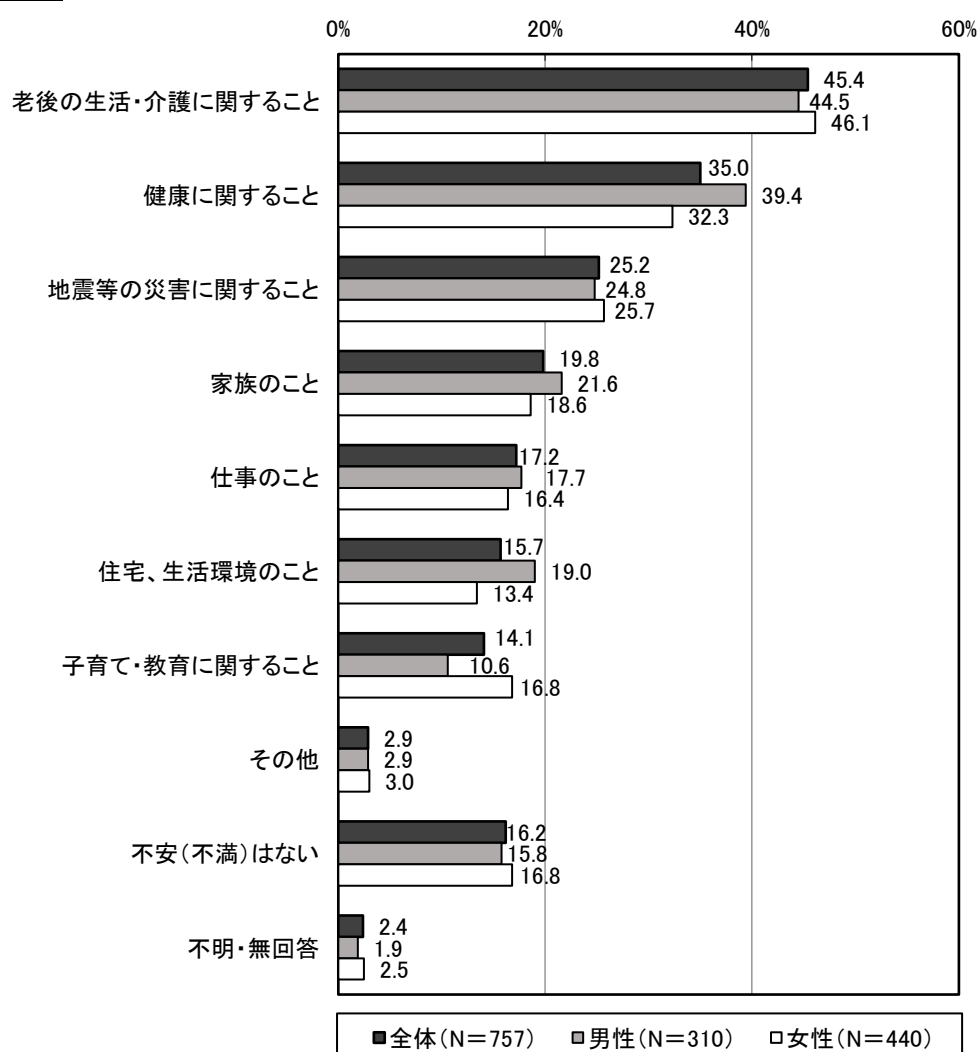
自分自身のことで不安（不満）に思っていることは何ですか。（複数回答）

○全体では、現在不安（不満）に思っていることについては、「老後の生活・介護に関する
こと」が45.4%と最も高く、次いで「健康に関すること」が35.0%、「地震等の災害に
関すること」が25.2%となっています。

○年代別では、『20 歳代』『30 歳代』を除くすべての年代で「老後の生活・介護に関する
こと」、『20 歳代』で「仕事のこと」、『30 歳代』で「子育て・教育に関すること」が最
も高くなっています。『19 歳以下』では、「老後の生活・介護に関すること」と「不安（不
満）はない」が同率で最も高くなっています。

●前回調査時よりも、「老後の生活・介護に関すること」の割合が5.2ポイント増加してい
ます。また、20代において「不安（不満）はない」が13.2ポイント減少しています。

性別



年代別

年代別			老後の生活・介護に関すること	健康に関すること	家族のこと	住宅、生活環境のこと	仕事のこと	子育て・教育に関すること	地震等の災害に関すること	その他
年代	19歳以下	(N=12)	4	1	3	-	2	-	-	2
			33.3	8.3	25.0	-	16.7	-	-	16.7
	20歳代	(N=51)	7	5	8	6	14	12	8	5
			13.7	9.8	15.7	11.8	27.5	23.5	15.7	9.8
	30歳代	(N=104)	25	23	21	27	33	48	19	5
			24.0	22.1	20.2	26.0	31.7	46.2	18.3	4.8
	40歳代	(N=166)	66	46	29	25	33	35	49	4
			39.8	27.7	17.5	15.1	19.9	21.1	29.5	2.4
	50歳代	(N=129)	74	41	22	22	26	10	38	3
			57.4	31.8	17.1	17.1	20.2	7.8	29.5	2.3
	60歳代	(N=103)	61	48	26	21	17	2	29	2
			59.2	46.6	25.2	20.4	16.5	1.9	28.2	1.9
	70歳以上	(N=185)	102	100	39	17	2	-	48	1
			55.1	54.1	21.1	9.2	1.1	-	25.9	0.5

年代別			は不安い（不満）	不明・無回答
年代	19歳以下	(N=12)	4	-
			33.3	-
	20歳代	(N=51)	11	1
			21.6	2.0
	30歳代	(N=104)	13	-
			12.5	-
	40歳代	(N=166)	35	3
			21.1	1.8
	50歳代	(N=129)	24	1
			18.6	0.8
	60歳代	(N=103)	17	1
			16.5	1.0
	70歳以上	(N=185)	19	11
			10.3	5.9

■地域とのつながりについて

あなたは、地域とのつながりがあると思いますか。(単数回答)

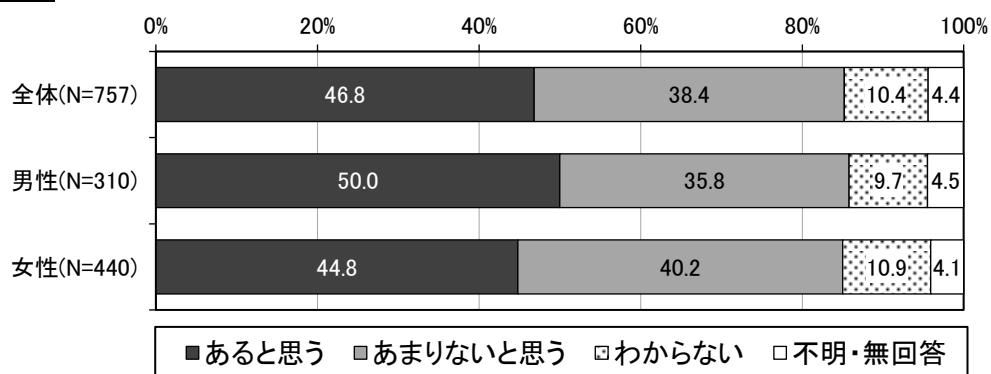
○全体では、地域とのつながりがあると思うかについては、「あると思う」が46.8%で、「あまりないと思う」の38.4%を上回っています。

○「あると思う」という割合は、女性より男性の方が高くなっています。

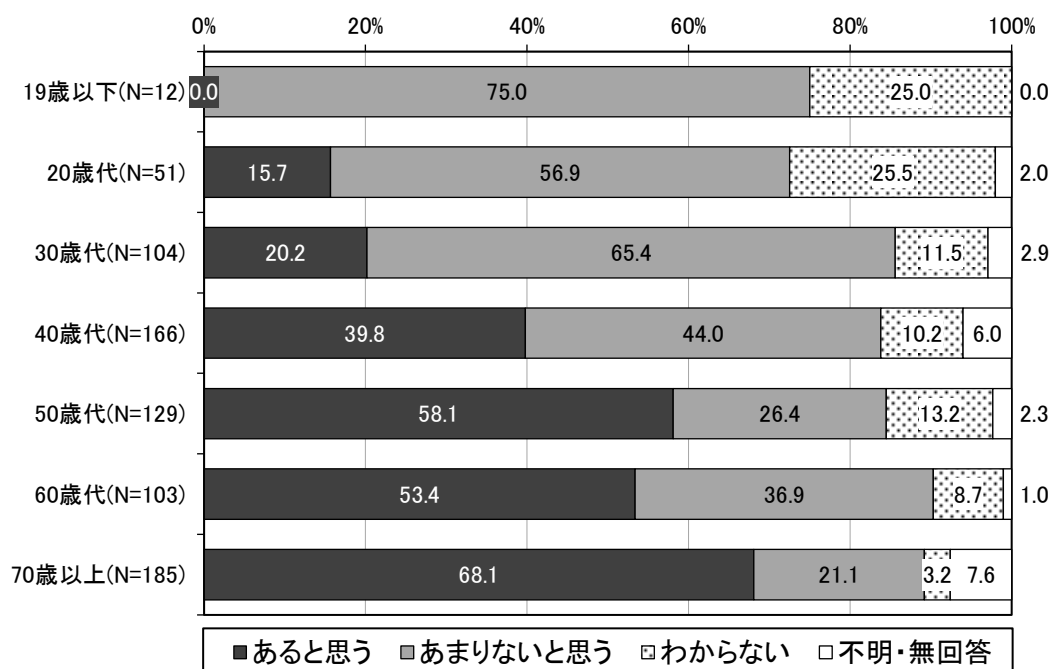
○年代別では、50歳以上では「あると思う」が「あまりないと思う」を上回っていますが、その他の年代は「あまりないと思う」の方が高くなっています。20歳代では、「あると思う」が15.7%、19歳以下では0.0%と低くなっています。

●前回調査時よりも、「あると思う」が16.5ポイント増加しています。20代でも「あると思う」が11.2ポイント増加している一方で、19歳以下では18.8ポイント減少しています。

性別



年代別

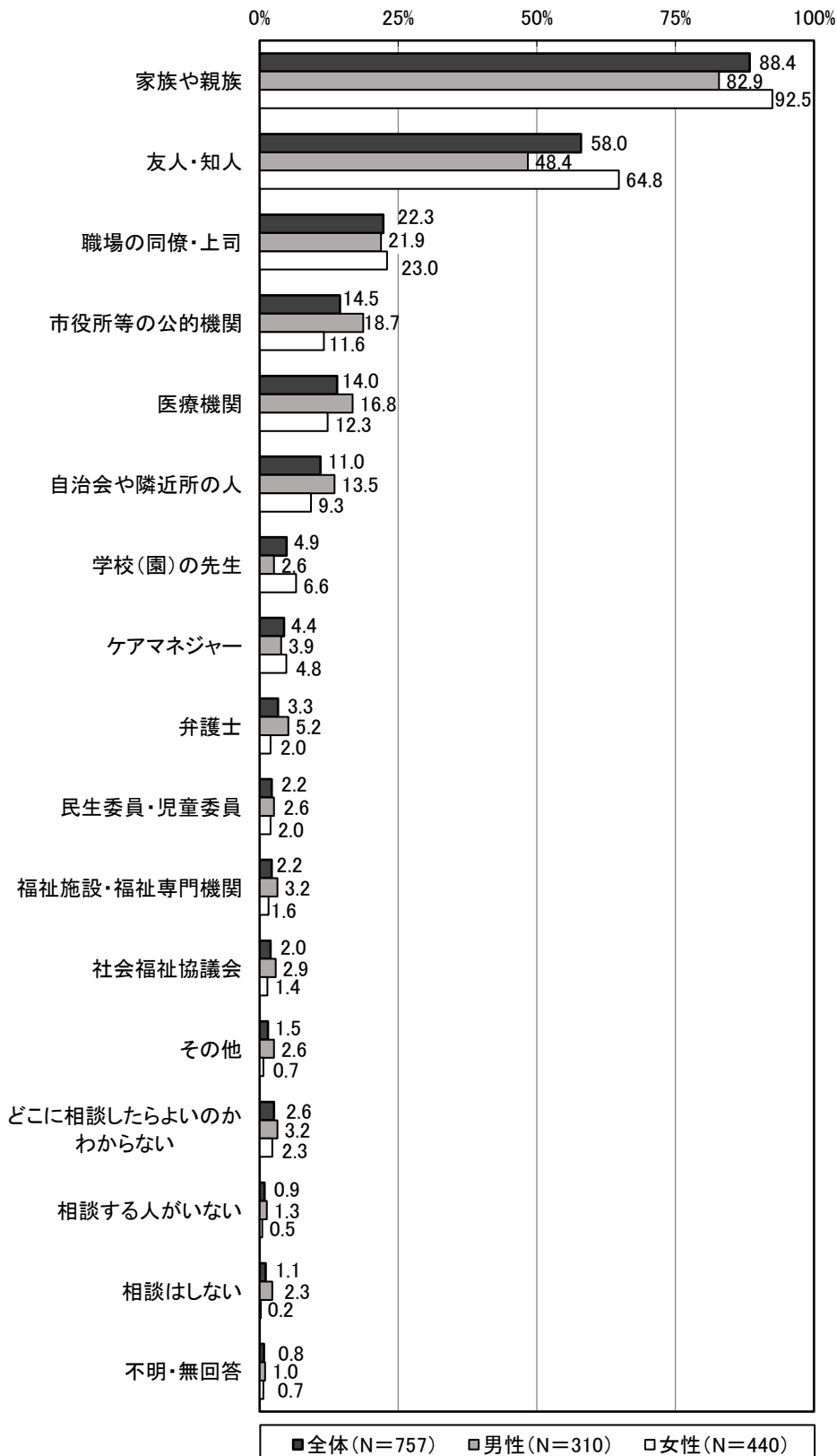


■様々な場面で困ったとき、相談する相手

様々な場面で困ったとき、誰に相談しますか。(複数回答)

○全体では、困ったときに相談する相手については、「家族」が88.4%と最も高く、次いで「友人・知人」が58.0%、「職場の同僚・上司」が22.3%となっています。

●前回調査時と比べ、「どこに相談したらよいかわからない」が0.5ポイントの差となっており、ほとんど横ばいで推移しています。



■ご近所との関係について

あなたと、ご近所の人との関係はどれに近いですか。(複数回答)

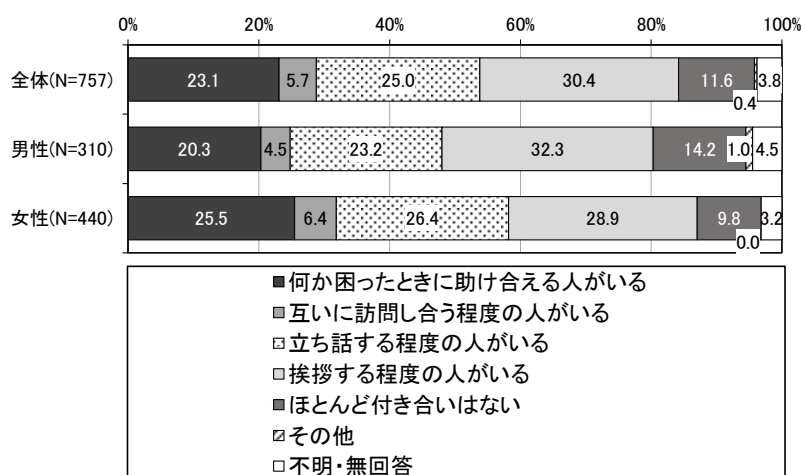
○全体では、あなたとご近所の人との関係については、「挨拶する程度の人がいる」が30.4%と最も高く、次いで「立ち話する程度の人がいる」が25.0%となっています。

○男性は、「挨拶する程度の人がいる」、「ほとんど付き合いはない」の割合が女性に比べて目立って高くなっています。女性は、「何か困ったときに助け合える人がある」、「立ち話する程度の人がいる」が男性に比べて高くなっています。

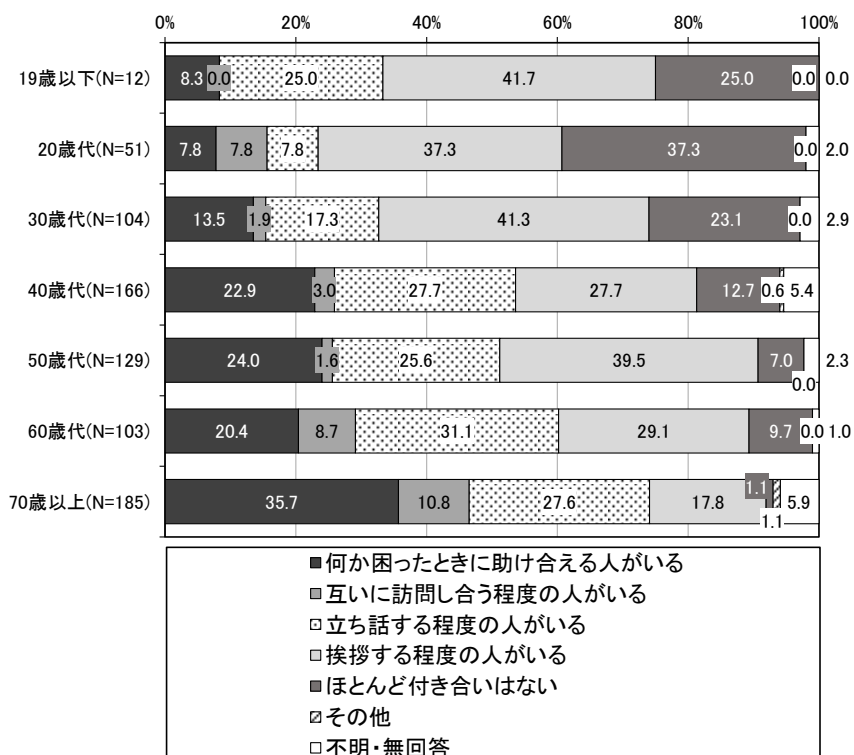
○年代別では、40歳代以上では「立ち話する程度の人がいる」が高くなっていますが、30歳代以下では「挨拶する程度の人がいる」が高くなっています。

●前回調査時よりも、「互いに訪問し合う程度の人がある」が8.6ポイント減少しています。一方で、20代では「ほとんど付き合いはない」が10.0ポイント増加しています。

性別



年代別



■地域住民が安心して暮らせるために、自分ができること

地域住民が安心して暮らせるためにあなた自身ができると思われることは何ですか。
(複数回答)

○地域住民が安心して暮らせるために自分ができることについては、「地震等の災害時に地域の防災組織として安否確認等をする」が30.5%と最も高く、次いで「今はない」が27.7%、「ゴミ出し等、簡単な家事の手伝いをする」が25.1%となっています。

○隣近所で手助けしてほしいことについては、「今はない」が57.3%と最も高く、次いで「地震等の災害時に地域の防災組織として安否確認等をする」が23.1%、「病気等、緊急時に看病したり医者と呼ぶなど手助けをする」が12.9%となっています。

